

5. ヤマビルに吸血された場合

ヤマビルは吸血します。吸血の際に痛みをなくし、血液の凝固を妨げる「ヒルジン」という物質を出すため、**吸血された人は気づかず**、しかも吸血被害後、**出血がすぐには止まりません**。

吸血に気づいたら、慌てないで、次のとおり対処してください。

①取り除く

吸血しているヤマビルは、すぐにはがしましょう。無理矢理はがしても傷口は大きくなりませんが、虫除け剤をスプレーしたり塩をかけたたり火を近づければ、簡単に取ることができます。

②駆除

はがしたヤマビルは、確実に駆除しましょう。ヤマビルは強靱な筋肉を持つため、靴で踏んだだけでは駆除できませんので、注意しましょう(塩、消毒用エタノールや殺ヒル剤をかけたたり、ハサミなどで切る。)

③傷口の洗浄と唾液成分の搾り出し

傷口から血を押し出すようにして流水で洗うことで、ヒルジンなどの体液を押し出すことができ、かゆみや腫れを軽減することができます。

④手当て

傷口は抗ヒスタミン剤(虫刺され薬やかゆみどめ薬)を塗布し、絆創膏を貼ります。絆創膏は2~3時間毎に貼り替えましょう。なお、**アンモニアは効き目がありませんので、使用を控えましょう**。

⑤症状

吸血されると出血が2~3時間止まりにくく、その後かゆみや腫れがあります。治癒には個人差があり、熱・化膿・めまいなどの症状が出ることもあります。1週間~1か月程度で治ります。なお、症状が改善されない場合や長引く場合は、医師に相談してください。

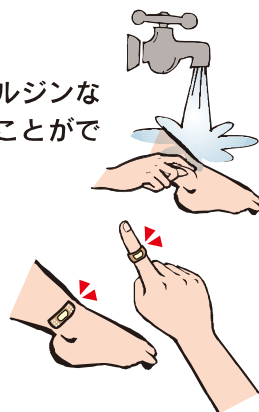
⑥その他

入浴に伴い再び血液が流れ出す場合もありますが、命にかかわることはありませんので、前述の「手当て」を繰り返しましょう。

発行 群馬県 健康福祉部保健予防課、環境森林部自然環境課、産業経済部観光局観光物産課
群馬県前橋市大手町 1-1-1 TEL.027-223-1111 (代表)

監修 医学博士 谷重和 一般財団法人環境文化創造研究所

参考 ヤマビル研究会ホームページ (<http://www.tele.co.jp/ui/leech/index.html>)
ヤマビル対策マニュアル(神奈川県県央地域県政総合センター環境部作成)
ヤマビル対策ガイド(神奈川県秦野市環境産業部森林づくり課作成)







群馬県

ヤマビル対策の情報ペーパー

このリーフレットは、ヤマビルの生態等を紹介するとともに、生息地域を訪れる方や近隣にお住まいの方ができる、ヤマビルの防除対策と吸血被害に遭った際の対処方法について紹介するものです。

1. 身近にいるヒルとその仲間

ヤマビル	林地・歩道落ち葉の下などに生息 特徴:コゲ茶色・背面に黒色の縦縞が3本		吸血する
チスイビル	水田・池・沼などに生息 特徴:緑灰色・背面に淡黄色の縦縞が5~7本		吸血する
イシビル	河川の石裏などに生息 特徴:茶灰色にマダラ模様・縦に2本線・泳ぎ上手		吸血しない
コウガイビル	住宅地域(植栽など)に生息 特徴:黒~黄土色・くし型の頭部が特徴		吸血しない

※コウガイビルは名称にヒルとありますが、環形動物であるヒルとは異なり、扁形動物に属します。

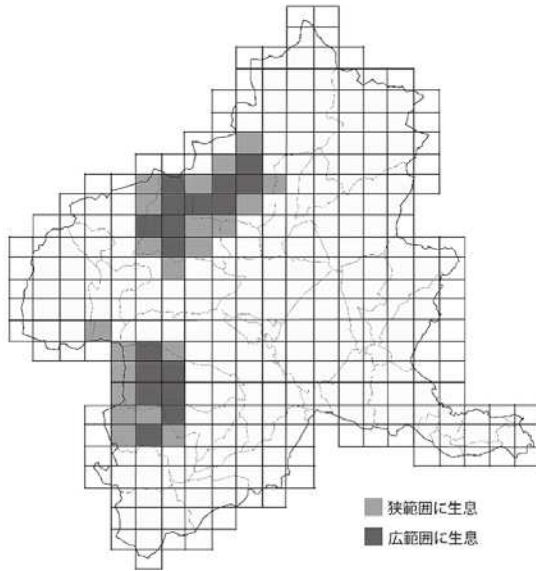
2. ヤマビルの生理・生態

- 分類** 環形動物(ミミズやゴカイの仲間)
- 形態** 円筒形で体長は1~5cm
- 歩き方** 端部にある2つの吸盤を使ってシャクトリムシのように移動。移動速度は1m/分と意外に早い。
- 繁殖** 雌雄同体で、十分に吸血して体重が0.5g以上になると産卵できる成体となります。産卵は5~10月に多く見られます。
- 活動期** ◎4月~11月が活動時期で、気温が20度以上の雨か、雨上がりの天候の時に最も活動が活発になり地表に現れます。
◎気温の低い12月~3月は地表から姿を消し、落ち葉や石の下などに潜んでいます。
- 吸血** ◎近くを通る野生動物や人の呼気等を感知して取り付き、体毛の少ない所にもぐり込みます。そして、柔らかい表皮を3つの顎(顎には多数の歯が付いている)を上下に動かして逆Y字型に切り、にじみ出る血液を30分から1時間かけて吸血します。
◎吸血の際に顎歯の間から分泌されるヒルジンにより、吸血される野生動物や人に痛みはほとんどありません。

3. 群馬県内のヤマビルの生息状況

引用文献 杉山直人、坂庭浩之：群馬県内のヤマビル分布状況(2009年)

群馬県内における大まかなヤマビル生息状況は、次のとおりです。



※生息域が広がっている可能性があります。

4. ヤマビルの防除方法

(1) 地域での対策：ヤマビルが住みつかない環境づくり

★化学的な防除

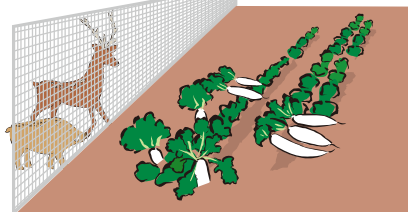
人が集まる公園、神社やキャンプ場などを対象に殺ヒル剤による薬剤等を散布し、ヤマビルを直接駆除しましょう。

★環境の整備（ヤマビルは乾燥が苦手）

人が集まる場所や遊歩道などの落ち葉の除去、除草や樹木の間引きをすることで、日当たりや風通しをよくし地表面を乾燥させ、ヤマビルの生息に厳しい環境を整備しましょう。

★野生動物を近づけない

ヤマビルの生息域拡大と深い関係があるといわれるニホンジカやイノシシなどの野生動物を人の生活圏に近づけないよう、侵入防止柵の設置や適正な個体数の管理が有効となります。



★継続的な対策

ヤマビルが住みつかない環境を整備するためには、前述の対策を根気よく継続していくことが重要です。

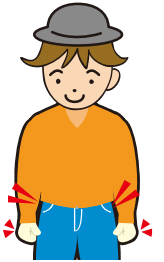
★情報の提供等

ヤマビルの生息場所や発生しやすい時期、天候などの情報を来訪者に知らせる看板の設置、更には殺ヒル用の塩を置くことも有効です。

(2) 個人による対策：ヤマビルがいる場所に入るとき

★まずは服装から

長ズボン、長袖シャツを着用し、肌の露出は避けましょう。ボタンのついた衣類はボタンの隙間から侵入するためなるべく着用せず、シャツの裾はズボンに入れましょう。



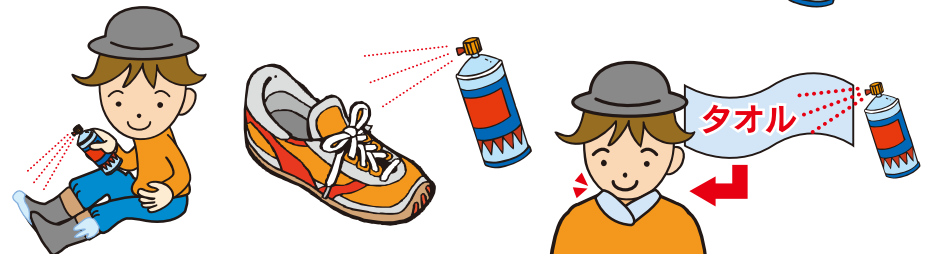
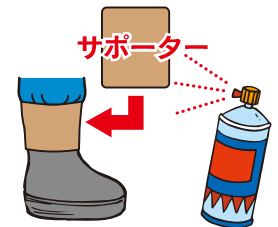
★吸血被害の多くは靴から侵入

ヤマビルは靴から上がって足を吸血することが多いので、靴下を履き、ズボンの裾を靴下に入れるなど、靴と足の隙間をできるだけなくしましょう。また、長靴などを履いた時はガムテープやサポーターなどで隙間をなくしましょう。



★化学的な防除との併用

前述の対策に、市販のヒル専用の忌避スプレーや食塩水(濃度20%以上)の利用など、化学的防除を組み合わせ使用しましょう。服装対策だけでは吸血被害の予防効果は期待できません。



★定期的な確認

一定時間歩いたり休みを取った後は、仲間同士で互いの足元等にヤマビルが付着していないかを確認し合いましょう。また、靴の裏の滑り止めの間や靴の中にヤマビルがもぐり込んでいないかも確認しましょう。